

2022年（令和四年）

4月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

4/14～4/20のNYMEX・WTI先物市場は、102.56～108.21ドルの範囲で推移した。

4月21日は、ドイツ外相が経済制裁として年内にロシア産原油を禁輸すると発表するなどEU諸国も段階的禁輸を検討中と伝わり、また、引き続き、リビア産原油の出荷停止が続いていることから、長期的にも、短期的にも先行き需給のひっ迫感が意識され、続伸した。ただ、連邦準備制度理事会（FRB）ボルカー議長の0.5%の大幅利上げを検討中との発言が上値を抑えた。この日から中心限月となった6月限の終値は前日比1.60ドル高の103.79ドル。

週末22日は、今週19日の国際通貨基金（IMF）の2022年の経済成長見通しの下方修正や最近の中国における感染再拡大による経済の停滞観測から、先行き石油需要の懸念が拡大し、反落した。また、FRBによる利上げ観測で、ドルが上昇、原油先物に割高感が出たことも値下がり要因。なお、ベーカー・ヒューズ社発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比1基増の549基で5週連続の増加。6月限の終値は前日比1.72ドル安の102.07ドル。

週明け25日は、週末22日に続き、世界経済の減速への警戒感から続落し、終値は節目の100ドルを割り、2週ぶりの安値を付けた。ただ、ウクライナ紛争の長期化を背景とする供給懸念は根強く、底値は固かった。6月限の終値は前営業日比3.53ドル安の98.54ドル。

26日は、安値拾いの買いや対ロシア経済制裁強化の動きを背景とした買いで、3営業日ぶりに反発した。6月限の終値は前日比3.16ドル高の101.70ドル。

27日は、ロシアの対ポーランド、ブルガリア向け天然ガス

出荷停止を受けた石油需給のひっ迫感の高まり、米国原油在庫の予想を下回る積み増し・石油製品在庫の取り崩しで、わずかに続伸した。6月限の終値は、前日比0.32ドル高の102.02ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は、4月14日～20日の間、105.30～108.90ドルの範囲で推移した。4月21日106.10ドル、22日104.20ドル、25日100.50ドル、26日101.00ドル、27日103.80ドルで推移した。

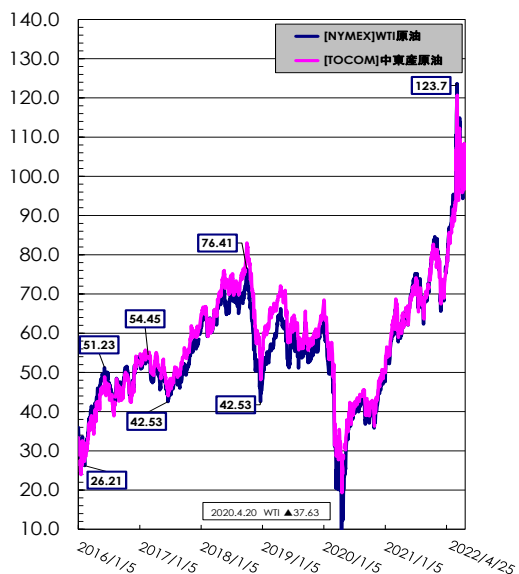
為替は、4月14日～20日の間、125.58～129.43円の範囲で推移した。4月21日128.28円、22日128.65円、25日128.81円、26日127.60円、27日127.66円で推移した。

財務省が4月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、78,774円/klで、前旬比10,308円高、ドル建て103.78ドルで前旬比10.68ドル高、為替レートは1ドル/120.69円。

そのような中で、4月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値下がり、軽油も同0.6円の値下がり、灯油は7.0円の値下がり（18%ベース）であった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は172.8円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は31.8円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/17～4/23	3,063 ▲84	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.6 ▲2.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/23	10,040 ▲412	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	4/25	96.78 ▼-9.75	▲ 35.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/25	98.54 ▼-9.67	▲ 36.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月上旬	103.78 ▲10.68	▲ 37.47
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	78,774 ▲10,308	▲ 33,074
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	120.69 ▼-3.77	▼ -11.12
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/25	129.81 ▼-2.13	▼ -20.92

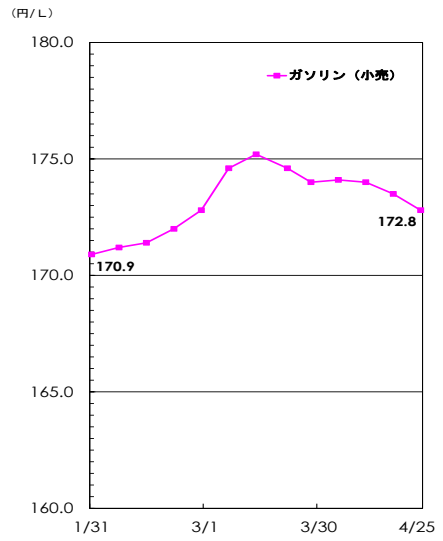
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/17 ~ 4/23	831 ▼ -25 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	
	出荷	"	745 ▼ -7 ▼ -	
	輸出	"	6 ▼ -27 ▲ -	
	在庫	4/23	1,678 ▲ 80 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	78.0 ▼ -0.8 ▲ 18.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	78.4 ▼ -0.9 ▲ 21.1
		(TOCOM/中部)	4/25	75.8 ▼ -4.4 ▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	172.8 ▼ -0.7 ▲ 22.3	

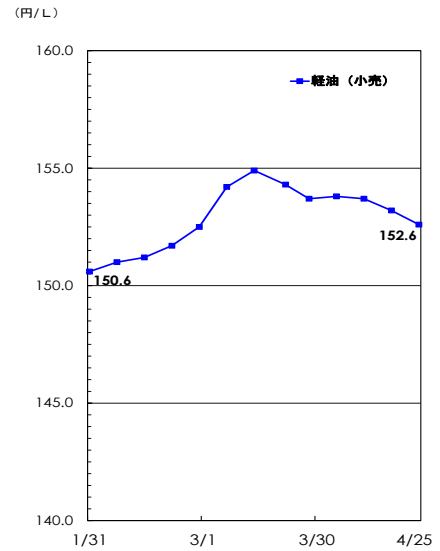
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

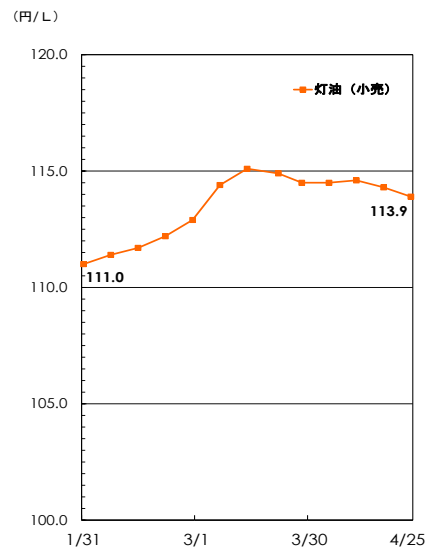
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/17 ~ 4/23	729 ▲ 35 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	
	出荷	"	578 ▼ -102 ▼ -	
	輸出	"	62 ▼ -31 ▲ -	
	在庫	4/23	1,205 ▲ 89 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	77.9 ▼ -1.1 ▲ 16.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	90.5 ▼ -0.8 ▲ 28.8
		(TOCOM/中部)	4/25	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	152.6 ▼ -0.6 ▲ 21.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/17 ~ 4/23	169 ▼ -22 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	
	出荷	"	169 ▲ 25 ▼ -	
	輸出	"	0 → 0 ▲ -	
	在庫	4/23	1,119 ▼ -1 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	77.8 ▼ -1.0 ▲ 16.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	76.3 ▼ -3.0 ▲ 20.4
		(TOCOM/中部)	4/25	77.3 ▼ -2.5 ▲ 19.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	113.9 ▼ -0.4 ▲ 22.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月27日のNYMEX先物原油は、ポーランド、ブルガリアに対するロシア産天然ガスの出荷停止で、石油需給にも波及しかねないとの懸念が高まったこと、また、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末(22日)時点の米国の石油在庫週報で、原油在庫が前週比70万バレル増と市場予想(200万バレル増)を大きく下回る小幅な積み増し、石油製品在庫もガソリン160万バレル減・中間留分140万バレル減と取り崩しになったことから小幅に続伸した。ただ、米国の大幅利上げ観測から、ドル高に伴う原油先物割高感による売りで、午前中に一時100ドルを割るなど、底値は固かった。6月限の終値は前日比0.32ドル高の102.02ドル、7月限は0.27ドル高の100.68ドルだった。

EIAによると、4月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.1セント値上がりの1ガロン4.107ドル(140.7円/ℓ)、ディーゼルは同5.9セント値上がりの5.160ドル(176.7円/ℓ)となった。ガソリンは6週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年4月17日～4月23日に休止したトッパー能力は30.9万バレル/日で、前週に対して3.8万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は306.3万klと、前週に比べ8.4万kl増加。前年に対しては43.0万klの増加。トッパー稼働率は79.6%と前週に対して2.2ポイントの増加、前年に対しては11.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.0%減、ジェット/10.0%増、灯油/11.4%減、軽油/5.1%増、A重油/8.8%減、C重油/4.0%増。今週のC重油の輸入は6.1万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は6.2万kl(前週比3.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は74.5万kl(対前週0.9%減)と2週振りに減少した。ジェット6.9万kl(対前週70.5%増)、灯油16.9万kl(対前週17.3%増)、軽油57.8万kl(対前週15.0%減)、A重油18.7

万kl(対前週2.3%減)、C重油15.6万kl(対前週23.7%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/17 ~ 4/23)	前週 (4/10 ~ 4/16)	前週比	
ガソリン	745	752	▼ -7	(-1%)
ジェット燃料	69	41	▲ 28	(68%)
灯油	169	144	▲ 25	(17%)
軽油	578	680	▼ -102	(-15%)
A重油	187	192	▼ -5	(-3%)
C重油	156	205	▼ -49	(-24%)
合計	1,904	2,014	▼ -110	(-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月23日時点の在庫は、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは167.8万kl、前週差8.0万kl増。前年に対しては21.8万kl少ない。

灯油は111.9万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては29.8万kl少ない。

軽油は120.5万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては43.3万kl少ない。

A重油は67.8万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

C重油は158.6万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては31.8万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/23)	前週 (4/16)	前週比	
ガソリン	1,678	1,598	▲ 80	(5%)
ジェット燃料	775	742	▲ 33	(4%)
灯油	1,119	1,120	▼ -1	(-0%)
軽油	1,205	1,116	▲ 89	(8%)
A重油	678	682	▼ -4	(-1%)
C重油	1,586	1,518	▲ 68	(4%)
合計	7,041	6,776	▲ 265	(3.9%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月19日～25日の指標原油価格は前週比でわずかに値上がりし、為替レートも大幅な円安で、元売会社の原油コストは、5.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額25.0円を加えたコスト上昇額30.0円に、補助金31.8円が支給されることから、次週(4/28～5/11)の元売会社の実質的な卸価格は1.8円の値下

げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月19日～25日の製品スポット市況は、4月12日～18日平均と比べ、海上・ガソリンの値上がりを除いて、他の全ての油種・取引で値下がりした。

直近週(4/19～4/25)の陸上スポット価格平均値は、前週(4/12～4/18)比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は1.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/19～4/25)に、前週(4/12～4/18)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は3.0円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/19～4/25)	前週 (4/12～4/18)	前週比
	レギュラー	78.0	78.8
灯油	77.8	78.8	▼ -1.0
軽油	77.9	79.0	▼ -1.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (4/19～4/25)	前週 (4/12～4/18)	前週比
	レギュラー	78.4	79.3
灯油	76.3	79.3	▼ -3.0
軽油	90.5	91.3	▼ -0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/19～4/25実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▼ -0.9	▼ -0.9
灯油	▼ -1.0	▼ -3.0	▼ -2.0
軽油	▼ -1.1	▼ -0.8	▼ -1.0
A重油	▼ -0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

4月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円安の172.8円、軽油も同0.6円安の152.6円、灯油は18%ベースで同7.0円安の2,051円(1%ベースでは同0.4円安の113.9円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3県、横ばいは4県、値下がり40都道府県だった。全国最安値は宮城県の166.6円、その次は埼玉県の167.7円であった。他方、最高値は長崎県の181.8円だった。最も値上がりしたのは愛知県(前週比0.3円高)で、横ばいは大分県など4県、最も値下がりしたのは栃木県と東京都(ともに前週比2.0円安)だった。

次回調査時(5/9)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/25)	前週 (4/18)	前週比	直近高値
レギュラー	172.8	173.5	▼ -0.7	08/8/4 185.1
灯油	113.9	114.3	▼ -0.4	08/8/11 132.1
軽油	152.6	153.2	▼ -0.6	08/8/4 167.4

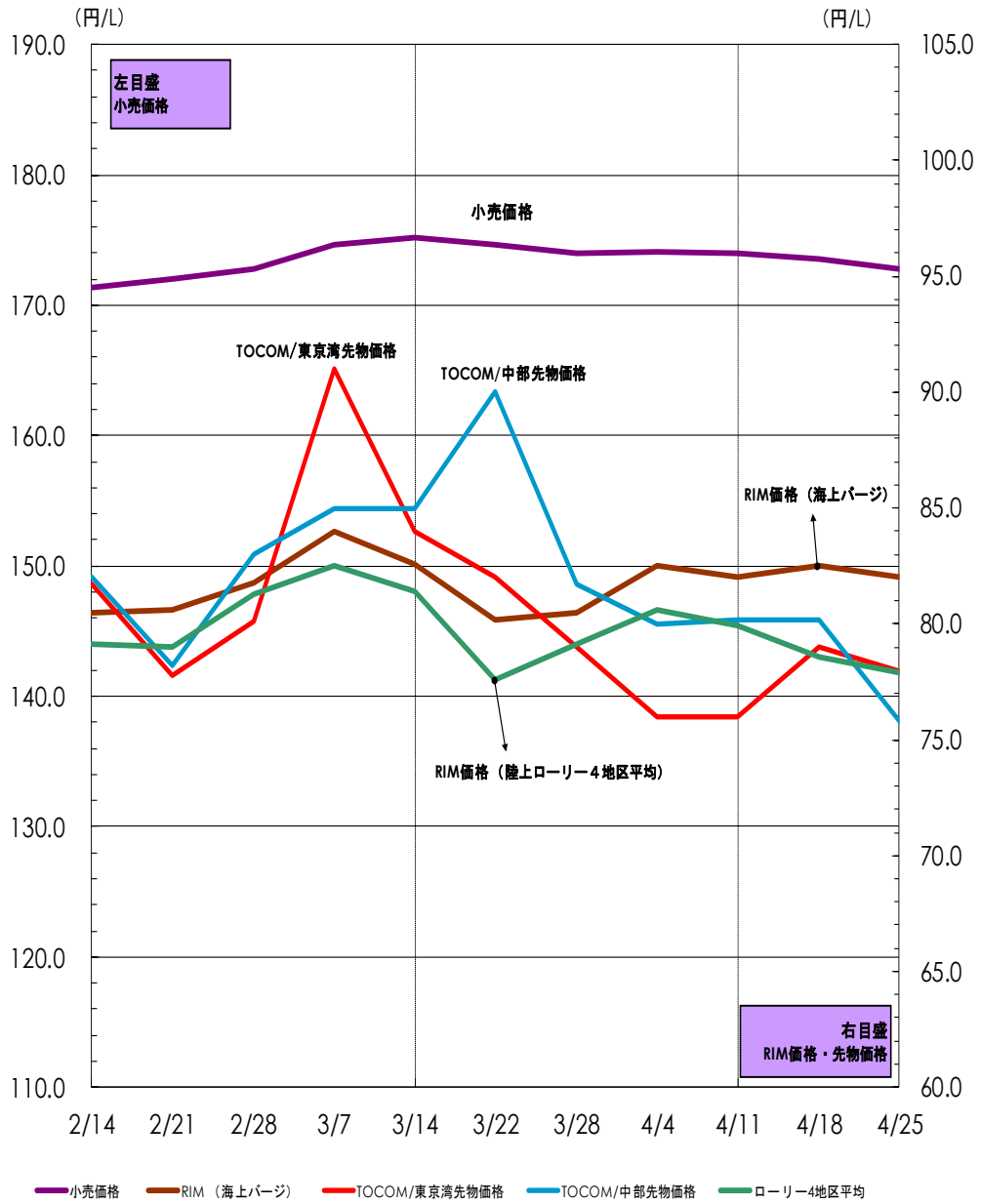
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2022/2/14 ~ 2022/4/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2022第6号)の公表は、5/13(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。